

ニホンナシのジョイント型樹形は 定植 10 年目を経過しても多収を維持できる

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹一ナシ一整枝・剪定

2 担当者名

南春菜、額田光彦、佐久間宣昭

3 要旨

ニホンナシ「幸水」及び「あきづき」のジョイント型樹形は定植5～6年で成園化が可能な樹形であり、定植10年目を経過しても慣行樹形と比較して多収を維持できることを確認した。

(1) ニホンナシのジョイント型樹形は、神奈川県で開発された特許技術であるが、本県においても早期成園化、早期多収が可能であった。

(2) 10a当たりの収量は、ジョイント型樹形が慣行樹形を大きく上回り、定植後5～6年で成園並みの収量に達する。定植12年後の収量は「幸水」が約4,200kg、「あきづき」が約7,200kgと多収を維持する(図1、2)。定植10～12年目の「幸水」では開花期の低温による結実不良や黒星病の発生により減収したものの、多収性は維持された。

(3) 定植後12年目(2021年)の「幸水」のジョイント型樹形の単位面積当たりの側枝本数は慣行樹形の約2.2倍だった。ジョイント型樹形の果実重、果実品質、腋花芽分化率は、慣行樹形との差は見られなかった。

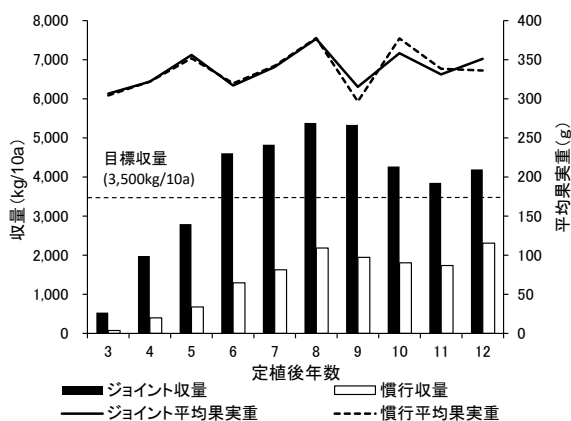


図1 「幸水」10a当たり収量と平均果実重の推移(2012-2021年)
※10a当たり植栽本数：慣行18本、ジョイント167本

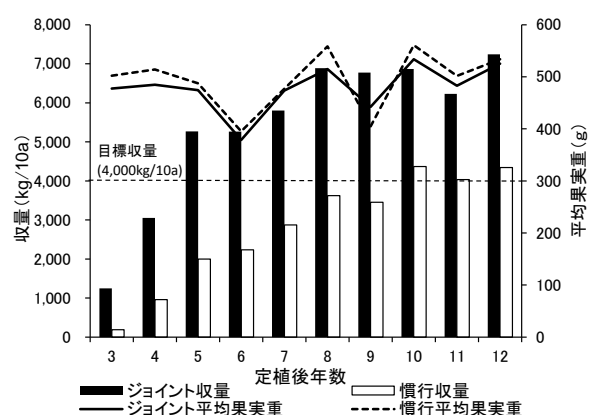


図2 「あきづき」10a当たり収量と平均果実重の推移(2012-2021年)
※10a当たり植栽本数：慣行28本、ジョイント167本

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3年度～令和7年度

(2) 研究課題名 ナシ・ブドウの革新的栽培技術体系 y による省力・高品質生産技術体系の確立

5 主な参考文献・資料

(1) 額田ら, 早期成園化を可能とするニホンナシのジョイント型樹形, 平成27年度普及成果